



南高SSHだより

第5号
H25.9.2
新潟南高等学校
SSH部発行

今年度、理数コース1年9組の生徒42名が「アメリカ研修」から無事に帰国しました。ここで学んだ多くのことを、南高生全体にも伝えたく、引率の本間先生から報告していただきました。なお、「蒼流祭」のステージ発表では、参加生徒による研修の報告があります。研修で学んだこと、生き生きとした体験や感想をぜひ聞きに来てください。

アメリカ研修

I 概要

目的： 世界一流の科学者との対話、および異文化交流
期間： 8/4～8/12（①8/4～8/7、②8/8～11）
場所： アメリカ合衆国東海岸（①マサチューセッツ州ボストン、②フロリダ州オーランド）
参加者： 1学年理数コース42名、担任、副任

II 主な研修の報告

1 ハーバード大学の視察・講義（ボストン）

現役のH大生（米国人）によるキャンパスツアー（6班）のあと、アイビーリーグ特有のレンガ造りの建物や緑が多い構内を自由散策し、ノーベル賞受賞者たちの学生時代に想いを馳せた。そのあと、H大大学院で学ぶ日本人留学生から意識啓発を目的とする講演を受けた。時差ボケも全くなく、生徒の目はやる気に輝いていた。



2 MIT博物館の見学・授業×2・インタビュー（ボストン）

MIT付属の博物館にて、M大講師（米国人）よりロボティクスとホログラフィーの実験授業を受けた。分かりやすい解説に加え、PCを用いての実験を繰り返しながらの授業は、生徒の興味を大いに誘った。インタビューも盛り上がり、時間内に終わらないほどだった。

3 MITの視察・講義（ボストン）

M大大学院で学ぶ日本人留学生によるキャンパスツアー（3班）のあと、M大大学院でモバイル技術について研究する日本人科学者から、ネットワークやつながることの文学・科学について、日本では学際領域と言われる分野に対する考え方について等の講義を受けた。アメリカ流の講義中のブレインストーミングにも慣れてきた。

4 ブロードインスティテュートゲノム研究所の視察・講義・インタビュー（ボストン）

H大・M大の共同研究機関で、世界に2台しかないゲノム解析機の1台を有する。世界最先端のゲノム学研究の現場で、米国人技術者より基礎研究とその応用の可能性について講義を受け、そのあとインタビューを行った。ゲノムの知識の欠如と英語学習の必要性を痛感するとともに、生物・化学の基礎研究の重要性を認識した。



5 ダナファーマー病院の視察・講義（ボストン）

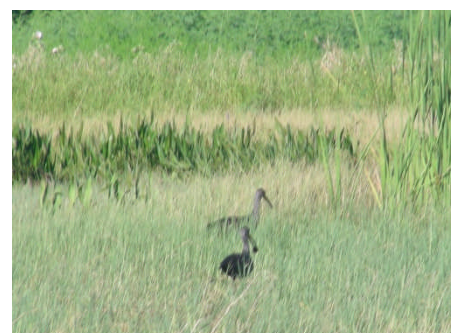
がん治療で全米最高の実績のある病院にて、患者中心の治療や緩和ケアの最先端について現地人現場スタッフの解説を受けながら施設見学を行った。その後、日本人医師（新潟高校出身）による公衆衛生学の講義を受け、同県人として刺激を受けた。

6 東海岸南部（亜熱帯）の植生・生態系観察・講義（オーランド）

オーランド市街地から近郊のビーチの間でフィールドワークを行い、海水域浅瀬の十足目甲殻類シーラリス、汽水域のマングローブ林・アリゲーター、湿原の浮葉植物の類、熱帯のエアプラント、国鳥である白頭鷺等について実態を観察した。随時、引率の間島教諭による解説講義があった。

7 エバークレーズ国立公園キシミー湿原の視察・講義・インタビュー（オーランド）

キシミー湿原にてエアボートに乗船し、湿原の水位調整施設を視察し、人工的に回復させた生態系の実態を観察した。そのあと、フロリダ大の教授兼治水管理局の部長から、キシミー湿原の開発、自然の荒廃、治水（生態系の維持管理をしながらの治水事業）等に関して講義を受け、インタビューを行った。



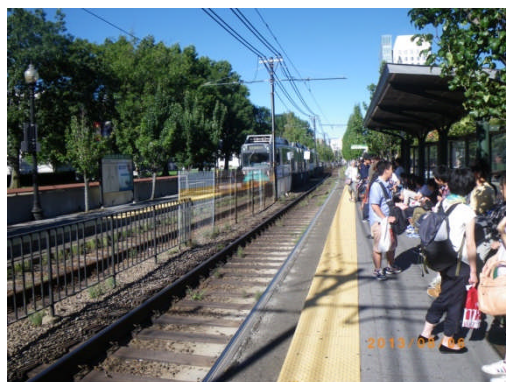
8 NASA ケネディー宇宙センターの視察・ATX・講義・インタビュー（オーランド）

NASAのケネディー宇宙センターにて、アップクロースツアーに参加し、スペースシャトルアトランティスの機体、発射台、組立工場を見学した（南高研修史上最も接近できた！）。そのあとATX（宇宙飛行士体験）で、模擬訓練・模擬操縦や宇宙開発についての講義を受けた。インタビューは大いに盛り上がった。



9 その他の体験（公共交通機関の利用・食事）

ボストン市内の移動には、地下鉄や路線バスを利用した。英語の実戦的使用や文化体験を促すだけでなく、主体的に研修先へ向かうことによって、街並み（街づくり）や建築物、都市機能・都市交通・都市整備への関心を深めることができた。食事は、自分で注文する体験を増やす一方、セットメニューは全てアメリカンにこだわった。



Ⅲ 関連学習

1 事前学習

(1) 説明会

4/8、5/11、7/13実施の旅行業者を交えた保護者対象説明会に同席した。

(2) 科学学習

水曜7限や放課後を活用し、研修先を調べて要点をまとめ、しおりに掲載した。

(3) 英語学習①・②

①東大教授で英語教科書執筆者の高橋和久先生の特別講義1コマを行った。②7人のALTを活用しての少人数英会話講座90分間×5日間(夏期講習前期期間の昼休み)を開講し、日常/旅行会話、科学講義のインタビューや謝辞の練習を行った。



2 事後学習(まとめ・報告)

(1) 研修成果報告会の発表準備

- ・研修後の夏休み後半から、研修成果をまとめ、発表資料・原稿を準備している。
- ・発表は英語で行う。

(2) 蒼流祭アメリカ研修成果報告会

1部 10:00～ 研修報告①「ステージ・パワーポイント発表」

2部 11:30～ 研修報告②「教室・ポスター発表」

3部 13:00～ 研修報告③「写真展示/おみやげ販売“American Eagle”」

(3) 報告書作成

- ・蒼流祭後、SSEIや放課後を活用し、研修の報告をまとめ、冊子を制作する。